

■論文題目	盛岡市内企業と理工系大卒人材のマッチング要因の解明と考察 -Mixed(混合的)アプローチを用いた仮説生成型研究-		
■氏名(学籍番号)	宮川真優(0412021098)		
■指導教員	近藤信一	■所属コース	経済・経営コース
■キーワード	盛岡市内企業	理工系大卒人材	マッチング

●問題意識と本研究の目的

筆者は、将来岩手県にUターンし、起業したいと考えている。中小企業論の講義やゼミでの活動を通して、大卒人材が就職したくなるような企業を自分で作りたいと考えた。そこで、地方都市にどのような要素の企業があれば、大卒人材が働きたいと考えるのかを知る必要があると考えた。盛岡広域圏の中で、大卒人材のUターンと企業の採用についての研究に協力してくれたのが、盛岡市である。

現在、盛岡市においても生産年齢人口の減少が進行しており、地元企業では人材採用が益々困難な状況に陥っている。さらに、理工系人材の人材確保支援は喫緊の課題となっている。盛岡市近郊は理工系人材の育成環境が整っており、岩手大学、岩手県立大学、岩手県立産業技術短期大学の3校で、年間約600名の理工系人材の就職者を輩出しているが、その約7割(約430名)は県外就職となっており、地元企業の人材不足の解決には至っていない。この状況を踏まえ、首都圏で就職した理工系人材に対して、移住を促進する施策の検討が求められている。地元企業の競争力強化や地域経済の発展には、理工系人材の確保と定着が不可欠であり、それに対する具体的な施策が必要となる。

本研究では、具体的な施策の構築のために、U・I・Jターンを希望する理工系大卒人材の求職ニーズと、盛岡市内企業の求人ニーズがどのような要素でマッチングするのかを調査する。

●先行研究調査と本研究の意義

移住者の視点から移住について研究された論文や、移住者を受け入れる企業側の視点から移住について研究された論文はいくつか発見することができた。また、移住者と移住を受け入れる企業側との間のミスマッチについて研究された論文についても何編か発見することができた。しかし、地方都市の各企業それぞれを調査対象として研究された論文は筆者が調べた限りでは発見できなかった。本研究において、盛岡市を対象に理工系大卒人材と盛岡市内企業との間における、求職ニーズと求人ニーズのミスマッチを明らかにすることによって学術的意義があるといえる。また、地方都市における企業と(理工系)大卒人材とのマッチング要因が明らかになり、多くの地方都市の人材採用が促進する一助となれば、本研究には社会的意義があるといえる。

●研究手法と分析手法

本研究ではアンケート調査による量的調査とインタビュー調査による質的調査の両方を行うMixed(混合的)アプローチを採用した。Mixed(混合的)アプローチを採用した理由として、今回のアンケート調査は質問項目が多く、回答完遂率を上げるため、回答者の負担を考えて自由回答(記述式)を減らし、構造化調査で実施したため、アンケートの質問項目(原因)と回答(結果)に対して相関関係しか把握できず、その因果関係を把握することができない。したがって、アンケート調査から定量データを収集するとともに、人材戦略の決定権者である経営者層と理工系大卒人材の両者に対して半構造化のインタビュー調査を実施し、定性データを収集することで、定量と定性の両面から多面的に分析し、考察して明らかにすることで、質問項目と回答の因果関係を明らかにする。特に、本研究のテーマである移住については、盛岡市内企業側も理工系大卒人材側も個別の事情が関係しており、内面的・心理的な側面を深掘りするため、半構造化インタビューを採用

した。また、柏村(2024)のレポートを参考に、本研究では収集したインタビュー調査の回答結果を、チャット GPT を使用して要約・分析をした。基本的な AI の活用は自然言語処理による自由記述回答の分析が可能となっていることから、本研究の分析において採用した。

●分析結果と考察

インタビュー調査回答結果をチャット GPT を用いて分析した。盛岡市内企業からは「多くの企業は、理工系大卒人材や盛岡市への移住者とのつながりを十分に所有していないと感じている。一部の企業では、地方特化型のマッチングサイトやイベントを活用することで一定の成果を上げているが、全体としては理工系大卒人材との接点が不足しており、特に移住者とのつながりを構築するのが課題となっている」といった回答などを得ており、理工系大卒人材からは、「移住者、地方都市の企業、移住を希望する地域の人とのつながりを同時にしている人は少なく、特に移住先の地域や企業に関する特定の情報や関係を持つ人は限定されている。移住を検討する上で、移住先に関する具体的な情報提供やネットワークを望んでいる人が多い」といった回答などを取得した。

アンケート調査とインタビュー調査の結果から、筆者は盛岡市内企業と理工系大卒人材のマッチングにおいて、両者のつながりが不足していると考え、盛岡市内企業と理工系大卒人材のマッチングのためのモデルを2つ作成した。1つ目は、既に高等教育機関を卒業した人材向け(既卒の理工系大卒人材)のモデルである。2つ目は、これから理工系大卒人材になりうる人材に向けたモデルである。

●本研究の成果と今後の課題

移住希望者と域内企業との間のミスマッチの存在(構造的空隙論)があることを確認し、どのようなミスマッチが存在するのかについて、経済学見地・社会学見地・(社会)心理学見地から明らかにしている点に、本研究の学術的な意義がある。また、盛岡市(盛岡広域圏)のような地方都市における大卒人材(特に理工系大卒人材)の採用に関しては、都市部以外の多くの地方が課題としていることである。大学が多数立地している盛岡市を含む盛岡広域圏で、既存の高等教育機関を活用して、「ゆかり」がある理工系大卒人材と地域内企業を結び付けるモデル、その課題解決の一助となるようなモデルの作成ができたことは社会的意義も満たすことができたといえる。そして、このモデルは理工系大学や理工系学部のある大学を有する地方都市のU・I・Jターンの移住促進に寄与することが期待されるだけでなく、大学を有さない地方都市が大学を誘致することでU・I・Jターンの移住促進につながることを実証をしたことは政策的効果の側面から考えて、社会的意義は極めて大きいといえる。

本研究における課題は、現段階で実際に移住に取り組み始めている人(移住希望者)のデータを取得することができなかったことである。理工系大卒人材に焦点を当てて調査母集団を形成したが、ここに必ずしも移住希望者が含まれているとは限らないため、移住希望者に焦点を当てた調査母集団を形成することで、本研究よりも多くのデータ(アンケート調査の個票数、インタビュー調査の回答数)を取得することができたと考えられる。

●主要参考文献

- ・入山章栄(2019)『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社
- ・柏村祐(2024)「AI を活用したアンケート分析の深化と企業戦略立案への貢献～顧客理解の深化から戦略立案まで～」『ライフデザインレポート』、第一生命経済研究所、pp. 1-10